

平成19年新年挨拶



(社)全国土木施工管理技士会連合会会長 豊田 高司

新年明けましておめでとうございます。

土木施工管理技士会の会員の皆様方には、常日頃から私ども連合会の活動に対して深いご理解・ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて公共事業は近年大変厳しい状況が続いております。こうした中、品質確保法が施行されたことにより、従来と比較して価格より品質をより重視して公共事業を評価するという総合評価方式が導入されました。この結果、技術力と経営力が優れた企業が伸びる環境になりつつありますが、一方で低価格入札が大きい問題となっており、今後様々な努力が必要であると感じております。連合会としても、公共工事に携わる土木技術者が高度化・複合化する技術の進展に的確に対応しその役割を十分果たせるよう、技術力向上のための活動を強力に進めて参ります。

活動の中でも、継続学習制度（CPDS）の運営には力点を置いております。CPDSの学習履歴は、技術者の研鑽を積む姿勢を現すため、技術力を適切に評価する指標としても有効と考えられます。実際、これまで国土交通省九州地方整備局、関東地方整備局、広島県、愛媛県、高知県、長崎県、長野県、佐賀県、宮城県、島根県、鳥取県、広島市でCPDSのユニット数や講習会などを行政上の技術評価項目としていただいております。継続学習の履歴を発注者側で評価していただくことは、継続学習をする者にとって

特に大きい励みになります。連合会としては今後とも行政機関に対し一層の普及をお願いする所存です。

監理技術者講習につきましては、本年は16技士会で取り組んでいただくこととしております。全国ベースでの受講者数が少なくなることから技士会の講習も厳しい状況が続いておりますが、技士会会員の皆様におかれましても受講する場合には、是非技士会の講習を受講いただければと思います。連合会、技士会が協力しあえば、監理技術者講習は技士会活動の大きい柱に育つものと思っております。

また連合会の活動としまして、各県技士会のご協力をえて会員に対するアンケートを行い、会員が身近に感じている諸課題等を中心に調査いたしました。会員の皆様にはご協力ありがとうございました。連合会としては、こうした会員の声を基に今後国土交通省へ要望するなどして、その実現に結びつけたいと考えております。

連合会では、技士会と協力して今後さらに活動を充実させて、会員技士一人ひとりが「入会して良かったと思える技士会」となるため、一層の努力を続けてまいります。連合会としては、今後とも土木施工管理技士会会員の皆様の暖かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、本年が皆様にとり輝かしい出発の年となりますことを心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。